

5－8. 静岡駅周辺エリア

1. 現況と課題

交通結節の拠点

新幹線や在来線、高速バス、路線バスなど公共交通が集約しています。また、大規模な駐輪場も多く、生活交通の拠点となっています。



静岡駅コンコース



大規模な駐輪場

静岡の玄関口

在来線に加え、新幹線の停車駅であることから、広域圏の来静者が集まり、静岡駅とまちを往來する歩行者が集中しています。



静岡駅南口駅前広場



静岡駅北口地下広場

道路による静岡駅と周辺街区の分断

駅前広場に隣接する道路によりまちへの動線が分断されています。特に北口は歩行者の主動線が地下道であり、まちへの往來には上下移動が必要です。



まちを分断する広幅員道路



北口地下道

滞留空間の不足

まちの玄関口として、駅前や周辺を含め、人が安心して滞留・交流できる広場空間が少ない状況です。



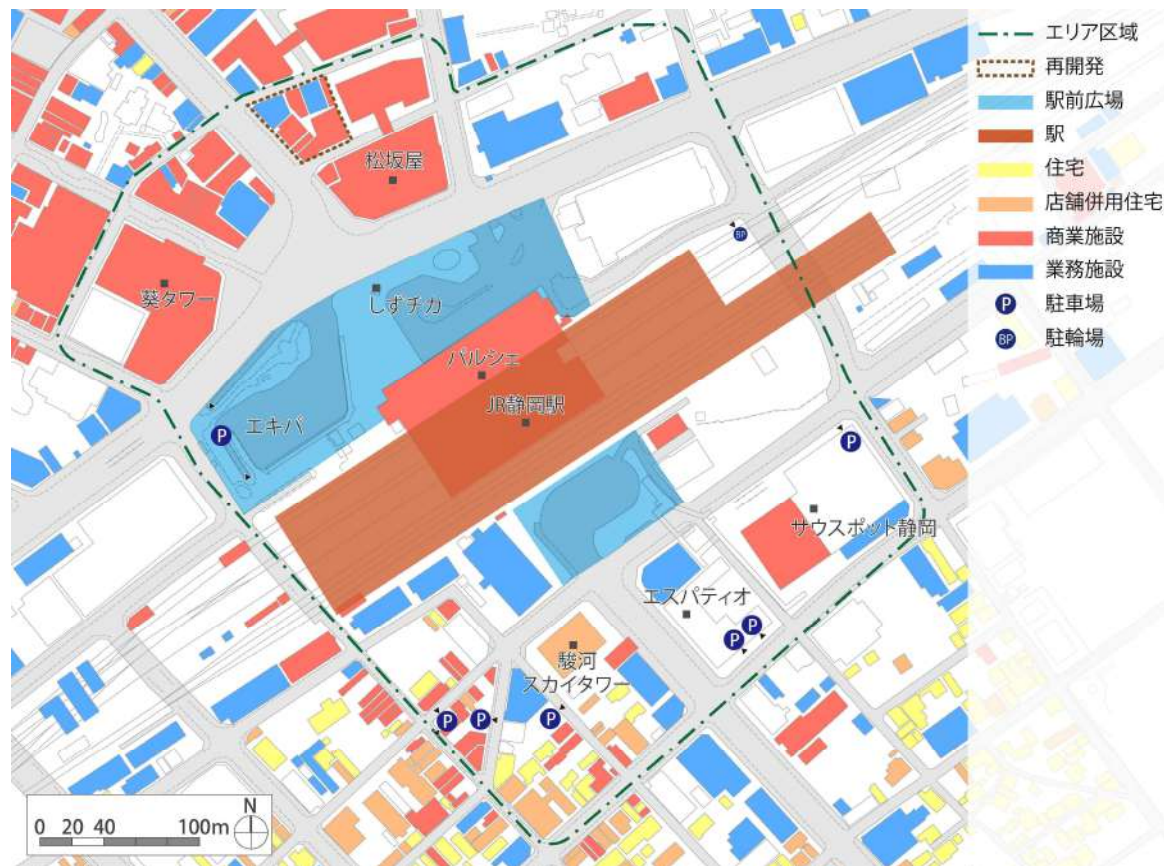
静岡駅北口広場

施設の老朽化

地下駐車場などの行政施設、周辺の民間施設など、老朽化し更新時期を迎えている施設が点在しています。



老朽化した地下駐車場



南北駅前広場の容量不足

交通需要に対して広場面積が不足しています。また、公共交通の待合施設が未整備となっています。



静岡駅南口広場

各種バス乗り場の分散

路線バスや高速バス等の乗降場が広場内からはみだし分散しているため、乗り継ぎが不便でわかりにくい状況です。



分散しているバス乗り場

2. エリアの強み・弱み／まちづくりの着眼点

エリアの現状から、これからのまちづくりを進めるにあたっての強みと弱み、このエリアのまちづくりの着眼点を整理します。

強み

- **静岡を代表する玄関口**
新幹線の停車駅であり、鉄道で訪れた人が静岡の第一印象を形成する、静岡を代表する玄関口です。
- **広域的な交通結節点^{*1}**
鉄道、バス、タクシー、自家用車といった様々な交通機能が接続し、大規模な駐輪場もある交通の結節点です。
- **来訪者の往来が多数**
駅ビルを始めとした商業施設やホテルなどが多いエリアで、静岡市内、静岡市外、県外から多数の人が集まります。
- **まちへ出る起点**
個性的な界わい^{*2}を形成しているまちなかのエリアに近接し、それぞれのエリアを選択する起点となっています。

弱み

- **駅前広場空間が不足**
北口、南口ともに需要に対して交通機能が不足し、また、滞留空間も少なく、駅前広場としての機能が十分に満足されていません。
- **施設の老朽化が進行**
周辺の行政施設や民間施設が老朽化し、更新時期を迎えつつあります。
- **まちなかへの往来が不便**
地上の歩行者動線が道路で分断され、徒歩でまちなかに移動しにくく、駅とまちなかが分断されています。
- **路線バスの乗降場所が分散**
路線バス、高速バスの乗降場が駅前広場に集約しきれずに、周辺の道路などに分散していて使いづらい状況です。

まちづくりの着眼点

- 通勤・通学者及び観光客やビジネス客など多様な人々が利用するため、**公共交通の利便性向上**により誰もが分かりやすく快適に利用できる空間を創出するとともに、**新しい交通手段にも柔軟に対応可能な、次の時代を見据えた交通結節点**とすることが求められます。
- 北口は、商業・業務機能や文化施設が集積し、静岡市内で特に活気のあるエリアです。その強みをさらに高めるため、駅とまちを歩行者が自由に往来できる空間や動線を整え、**まちなかへの接続性向上や見通しの改善**を図る必要があります。
- 南口は、業務機能の集積に加えて住宅も近接しているため、居心地を良くし、日常生活の質を高めるための、「**人と車、両方が使いやすい駅前広場**」「**多様な人々が安心して利用できる広場**」「**駅と周辺の街が一体となった空間**」の創出が重要です。
- 行政、民間施設の老朽化が進んでおり、更新の検討が求められています。また、南口・北口ともに駅前広場の容量が不足しているため、**滞留・交通・防災機能などの駅前に必要な機能のあり方を、官民連携も視野に入れながら検討**することが必要です。

^{*1}交通結節点：電車、バス、タクシーなど、異なる交通手段への乗り換えができる拠点(静岡駅、新静岡駅など)

^{*2}界わい：特徴のあるまとまった区域

3.空間特性・歩行者行動から見た特徴

- 駅は、まちのつながりを感じる始まりであり、終わりともなる場所です。まちの「玄関口」として、人を迎える空間デザインが重要です。
- 駅の南北をつなぐ経路は、駅周辺を歩いて巡りやすくし、まちへのつながりを強める役割を担っています。
- 単にバスやタクシーを待つだけでなく、訪れた人が心地よく過ごせるような、魅力ある滞留空間が必要です。



- 静岡駅からまちの各方面に動線が広がっており、人の行動の起点・終点となる場所です。
- 静岡駅の南北をつなぐ動線はつながりが弱く、一体的な回遊が分断されやすい傾向がみられます。

道のつながりがわかりやすい

道のつながりがわかりにくい

「見つけやすさ・わかりやすさ」



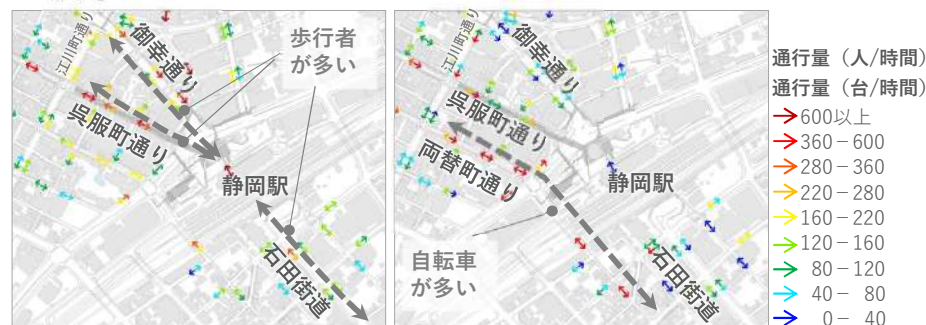
- 静岡駅の両側にある通りは駅の北側と南側をつなぐ主要な経路であり、徒歩や自転車でも行き来しやすい便利な通りです。

選ばれやすい

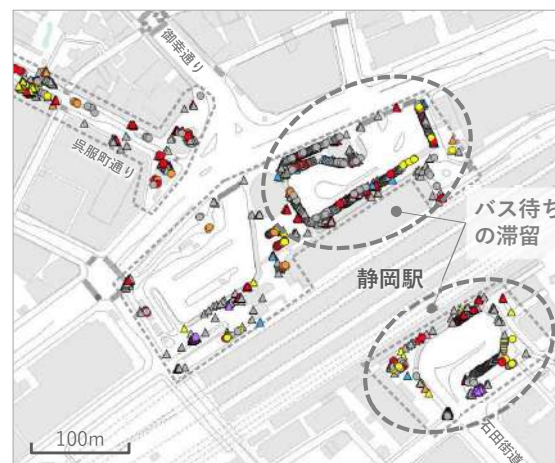
選ばれやすい

「通り掛かりやすさ」

- 駅周辺の人通りは、北側は呉服町通りや御幸通り、南側は石田街道に集中し、駅の南北をつなぐ通りにおいても一定の歩行者通行量がみられます。
- 自転車の通行は、歩行者の往来も多い両替町通りに集中する傾向が見られます。



人通り（通行量）（平日） 左：歩行者 右：自転車



- 駅前広場やその周辺は、バス待ちなどの「待つ」姿は見られますが、会話や食事を楽しんだり、一休みするといった、「心地よく過ごす」人の姿は少なくなっています。

滞留状況

○ 座っている △ 立っている

- 行動
- 話している
 - 飲食している
 - 楽しむ（買い物/遊び/写真撮影など）
 - 休憩（荷物整理/居眠りなど）
 - 道に迷っている様子
 - 喫煙
 - その他（信号待ち/スマホなど）

立っている・座っている様子（滞留行動）

4.まちづくりの基本的考え方

第4章で示した「10の方策」における、このエリアで特に重要な位置づけを以下の視点から整理します。

- 国道1号の地上横断化、駅前広場の再整備によって、まちと静岡駅の移動の円滑化を目指します。また、既存の地下広場や地上の駅前広場、周辺の公共的空間に充実した滞留空間を設け、まちなか回遊の起点としてふさわしい静岡駅を目指します。



体験を育む滞留空間の適切な配置

- 分散しているバス停の集約化や、様々な交通手段の乗換え利便性の向上、新たな移動手段の構築を見据えた空間整備など、駅前広場の再整備によってまちの玄関口となる交通結節点としての機能強化を図ります。



広域からのアクセスの強化

- まちなかの自転車移動の利便性を向上するために、静岡駅の南北をつなぐ2つの通りは最も重要な移動の軸となります。
- 静岡駅は移動の起点であり目的地であるため、市民が利用する駐輪場やシェアサイクルポート^{*1}を充実します。



まちなかの移動手段の多様化

- 駅や駅前広場に面する建物、また駅本体や駅ビルの新築、増築、外観の変更等にあたっては、デザイン調整^{*1}を行い、静岡の玄関口にふさわしい景観を形成します。



都市の顔となる街並み形成に向けた建築物のデザイン調整

^{*1}シェアサイクルポート：シェアサイクルの貸し借りをするための専用の場所

^{*2}デザイン調整：建物のデザインなどが、まちの景観や方針と合うように、専門家と話し合い、整えていくこと

5.まちづくりの方針

静岡の玄関口として人々をもてなし、 まちなかへ誘う交通結節機能・交流機能の強化

まちへ誘う歩行者動線と交通機能の再編

- 国道1号の地上横断化によって静岡駅とまちなかのつながりを高め、人中心の空間を目指します。
- 滞留空間と交通空間を適切に配置した駅前広場の再整備や、分散したバス乗降場の集約・最適化など、様々な交通手段を自由に選択して移動ができるような駅とまちが一体となった空間への再編に着手します。

静岡の多様な活動に出会う交流空間の形成

- 市民から来訪者まで様々な人が行き交う場であることを活かし、静岡を感じることができる交流空間を形成します。
- 駅前広場の滞留空間の充実、しずチカ広場の改修、駅周辺の公共的な空間の活用などにより、日常的な憩いから、大道芸などの静岡らしい活動まで可能な空間づくりを進めます。

駅とまちが一体となった顔となる景観の形成

- 駅から見たまちの風景や、まちから駅を見た風景は、静岡の印象を左右するまちなかでも最も重要な景観であることから、駅や駅ビル、駅前広場に面する建物の更新時にはデザイン調整^{*1}を行い、駅とまちが一体となって静岡の顔としてふさわしい景観を形成します。

広域交通の結節拠点であることを活かした商業・業務・観光機能の充実

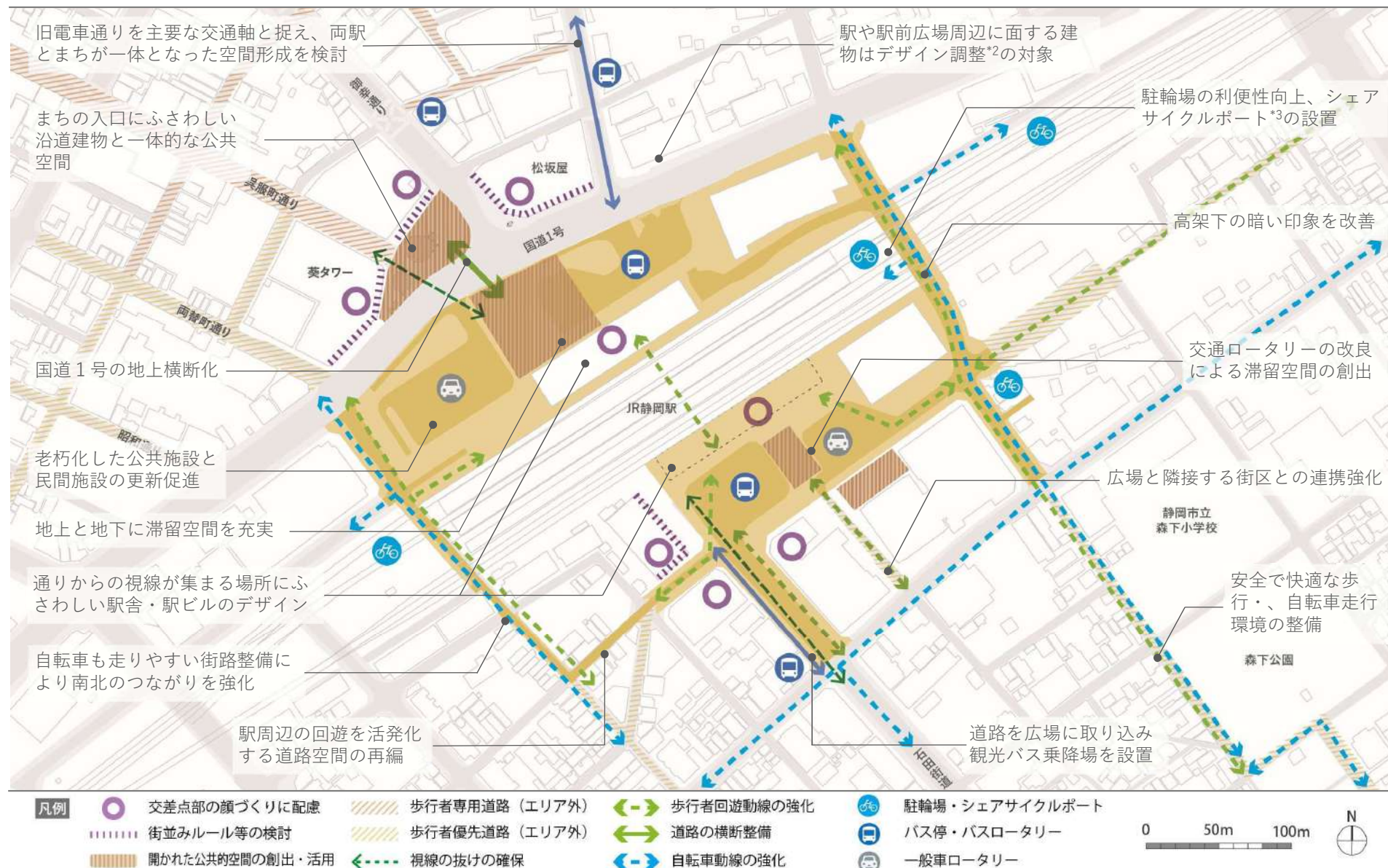
- 広域圏との往来がしやすい結節拠点であることを活かし、高機能な業務施設、高水準な宿泊施設、高等教育施設、大規模商業施設など、民間の優良な開発の誘導を支援します。これによって広域から人を集める機能の集約を図り、地域経済の活性化と多様な交流を生み出す拠点をつくります。

^{*1}デザイン調整：建物のデザインなどが、まちの景観や方針と合うように、専門家と話し合い、整えていくこと

6-1.空間づくりの方針

エリア共通の方針

- ・静岡の玄関口にふさわしいデザイン
- ・交通結節点^{*1}としての機能強化、わかりやすく誰もが使いやすい空間・仕組みづくり



^{*1}交通結節点：電車、バス、タクシーなど、異なる交通手段への乗り換えができる拠点（静岡駅、新静岡駅など）

^{*2}デザイン調整：建物のデザインなどが、まちの景観や方針と合うように、専門家と話し合い、整えていくこと

^{*3}シェアサイクルポート：シェアサイクルの貸し借りをするための専用の場所

6-2.空間づくりの方針



駅とまちのつながりを高め、心地よい滞在場所を充実させ、静岡の玄関口にふさわしい駅前空間を形成します。

7. 将来像

静岡の玄関口として人々をもてなし、
まちなかへ誘う交通結節機能・交流機能の強化



¹交通結節点：電車、バス、タクシーなど、異なる交通手段への乗り換えができる拠点(静岡駅、新静岡駅など)